

平成30年度「地域と共にある学校づくり」リーダー研修会 実施報告

《日時》 平成31年1月17日(木) 13:15～15:50
 《会場》 桜井市立図書館 研修室1
 《参加者》 県内公立幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教職員、
 地域コーディネーター、市町村教委担当者 等 計172名

《内容》

- ◆説明「コミュニティ・スクールについて」 奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 指導主事 湊 丈司
 - ・ 地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域の人々も一体となって主体的に子どもたちを育む『地域と共にある学校』へ転換していくこと
 - ・ コミュニティ・スクールの機能、メリット、効果、設置、運営を行う際のポイント

◆実践発表①「地域コミュニティから中学校区コミュニティ・スクールに向けて」

香芝市立二上小学校 校長 吉田 典生

ふたかみコミュニティ推進委員会プロジェクトチーフ・香芝西中学校区地域コーディネーター 田中 ひろみ

- ・ 「熟議」で意見交換をすることで理解が深まり、課題が共有化でき、当事者意識が高まった。これを繰り返すことで学校が改善していった。
- ・ 組織づくりの構成を簡略化した。学校としての部会、地域の部会、保護者の部会をリンクさせ、テーマ(課題)に沿って話し合いを進めた。
- ・ コミュニティを活かすポイントは、学校と地域が課題を共有化したこと。学校評価とリンクしたPDCAサイクルの活用により、共有化できたものを各部会に戻し、次の指導にも活かすことができた。



◆実践発表②「滋賀県立長浜北高等学校 コミュニティ・スクールの取組」

滋賀県立長浜北高等学校 校長 梅本 剛雄

- ・ CS設置にあたり3つの課題があった。「普通科で特色ある取組をどのように行うのか」「小・中学校のCSとの違いを出すこと」「高校における『地域』とは何かについて考えること」である。
- ・ CSの特徴を2つ考えた。1つは「参画」、もう1つは「双方向性」、つまり「学校づくりが地域づくりになる」という考え方である。
- ・ 「子どもたちが地域の中でどう生きぬくのか」について、「学校運営協議会をどう利用するのか」という観点で取組を進めた。



◆パネルディスカッション「コミュニティ・スクールの導入に向けてと、その可能性について」

パネリスト 吉田 典生・田中 ひろみ・梅本 剛雄

高木 和久(文部科学省CSマイスター、奈良県CSアドバイザー)

ファシリテーター 畑守 伸昭(奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 地域教育係 係長)



- ・ 人のつながりをどう作るのか、そして経営の観点でビジョンをどう作りそれをどう動かしていくのか。地域や子どもの実態に沿ったものを考えなければならない。
- ・ 地域は、子ども・学校を中心に、地域と家庭が連携して「地域の子は地域で育てる」という理解のもと、子ども達をしっかりと支援していきたい。
- ・ 生徒達には「もう一歩先」に挑戦してほしいので、「いかに失敗ができる空間を作れるか」をCSの1つの目標にしてほしい。

《参加者の感想》

- ◆ 目指すところが少しはっきりしてきた。年次的に計画的に進める必要性を感じた。
- ◆ 学校経営をオープンにして、知恵を注入し合い、課題克服に向け前進したいと思った。
- ◆ 高校の取組を聞き、行政の関わりが大変深いと感じた。それにより、生徒が活動できると思った。
- ◆ 未来を築く子どもを保障することの大切さを再確認しました。

今後の活動に活用できるか

